

お店をつくる

「豊橋」や「夏」をテーマに
ぼく、わたしだけのお店をつくらう。
できたお店を並べて、まちをつくらう。
この場所、この小学校だから
お店がテーマ。
あなたのまちなら、
何をつくりませんか？

水上ビルをイメージしています

1つひとつのお店を小学生が考えました

できた「お店」は、アートイベント
Seboneの開催に合わせ、豊橋駅前の
会場「穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
アールスペース」に持ち込まれ、建築
家たちによって展示された。最終日
には表彰式・講評会もここでいう

やってみよう、建築教室

水上ビルと、 アートイベント Sebone (セボネ)

豊橋駅前では、水上ビルを
舞台に「とよはし都市型ア
ートイベント Sebone」を
2004年から年1回開催して
います。Seboneとは、農業
用水の水路上に建築された商
店街ビル群、水上ビルが、ひ
との背骨のように市街地を貫
いていることから命名されてい
ます。建築教室「お店をつくらう！
～小さなまちづくりプロジェクト～」
は、Seboneの連携企画
として、豊橋駅前のまちなかに
暮らす子どもたちに、自分の育
った環境を知ってほしいとの思い
で企画しました。



黒野有一郎
愛知県豊橋市の建築家。「お
店をつくらう！」企画者。水
上ビルに入居する商店で生ま
れ育ち、現在も同ビルに事務
所を構えて暮らす。商店街の
理事長など地域で受け持つ仕
事も数多い



水上ビル



力作を学校から引き取り慎重に展示会場に運搬。都市計画さながら、建築家がお店を配置し、「小さなまち」をつくる。絵画と工作にはいくつかの賞を設定。商店街役員や地元の画家、市の担当者などが各自の視点で真剣に審査する

建築家が工作に関わるサマースクール。難しい作業を手伝う一方で「できた」という子には「もっとこうしてみたら？」とアドバイス



高学年は立体作品。敷地としてB4サイズのスチレンボードを提供。簡単な建築のルールを設けて守ってもらう

豊橋市の中心市街地で暮らす子どもたちが対象。周囲にはお店が多くあり、商店を営む身内をもつ子もいる。地域について調べたり考えたりして、自分だけの楽しいお店づくりに挑戦する。想像力が膨らむように話を投げかけていく

「僕が育ち、娘がこれから育ってゆくまちなかという環境のことを知ってもらいたい」

第1回Seboneで商店がテーマの子どもたちの工作を見た黒野さんは、「もっとおもしろい大変なので、家族に手伝いに来てもらってました。だから家族のイベントみたいでした」

2019年、14回目の「お店をつくらう！」も盛況に終わった現在はというと、両小学校で活動の一部はカリキュラムになり、初めて立体に取り組む4年生に向けて黒野さんが図工の時間の講師を務めることも恒例になりました。「お店」の数は毎年500〜600点!! 展示と表彰式は大盛況です。

展示風景が大きく変わったのは2016年。それまで会場だった駅前大通の商業施設「名豊ビル」閉館にともない、新たな会場となったのは劇場のアートスペースでした。劇場スタッフの協力も得て、照明や映像を取り入れたより質の高い展示になりました。JIA愛知のメンバーが加わったのも同時期のこと

「すごく楽になった」

「会場はすばらしいし、たくさんの方が手伝ってくれるようになった。今ではこんなカッコイイ展示ができて、多くのお客さんに見てもらっています」

「まちなかで育った経験がその子の財産」という黒野さんのメッセージを受け取った子どもたちは、どんな気づきを得て今後どう地域と向き合っていくでしょうか。「結果はまだまだこれからです」と語りながら、黒野さん、嬉しそうでした。

松山小は黒野さんの母校で、企画が始まった当時は幼稚園生だった娘さんものに松山小に入学し、6年間お店づくりを体験。今、父も通った大学に進み、デザインを学んでいるそうです。

で、Sebone展参加の別企画の建築教室に換えて、2017年から、工作サポート、展示運営、作品審査、表彰式の一連を事業化。

JIA こどもけんちくか賞 (2019)

JIA愛知の建築家は、シンプルに「いい建築だ!」と感じた5作品を選定しました。子どもたちの中に、「店やまちのこと考えさせられたな〜」という経験が残り、将来まちに関わるときのアイデンティティーになればいいなど、未来の活躍を切望します



お客さんであふれているということがすばらしい! すいか、さくらんぼ、りんご、細かく作り込まれた華やかな作品

フルーツカフェ (松山小4年生)

豊橋ならではの市電を活用するアイデア。実現できたらいいな。裏側もきちんと市電としてつくってあって好印象!

カフェ市電 (新川小5年生)



上のハンドルを回すと下のプールに氷が落ちてくるという、理想をかなえてくれるお店。建築的にも芸が細かい!

かき氷プール (新川小5年生)

とれたてBBQ (新川小4年生)

1階の畑で採れたものを2階に持ち込んでBBQ! 食べている人たちのにっこりした顔は本当においしいそう。トンネルなど道具類の造形も完ぺき



ビルに見えるが、じつは地下。重ねた段ボールの断面で地層を表現するという、新しくハイセンスで美しい作品に脱帽!

ひんやり地下公園 (新川小5年生)



企画の始まりは一人で

「3年生は絵画、4〜6年生は立体の作品でお店をつくる。建築家として創作方法をプランニングし、まちなかにある2校、松山小と新川小に企画を持ち込みました。材料と道具の準備やSeboneでの展示方法など、学校側の不安を解消できると、翌年から黒野さんが「お店をつくらう!」企画展の担当を任せられました。

「最初のころは本当に一人で。作品を各小学校から展示会場に運ぶときに商店街の人にトラックを出してもらうことはありましたが、絵画を1枚1枚壁に貼ったり工作を並べたりするのは一人でやっていました。あま

ろい展示ができる」と確信。1

水上ビルで商店を営む実家に生まれ育った黒野さんは、進学で上京し、東京の設計事務所に勤めました。いつしか自分の「ホーム」の地で活動することに憧れ、36歳のとき豊橋に戻ります。帰郷した黒野さんが、水上ビルにある実家横の空き店舗を自宅兼事務所にしようとしていたころ、同じ豊橋の中心市街地をアートの活性化させるイベント「Sebone (セボネ)」も始まります。